

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ~ 平成30年 3月16日
調査研究事項	<p>委託研究 ></p> <p>【天理市立北中学校夜間学級】</p> <p>ア.義務教育未終了者に関する事 イ.入学希望既卒者に関する事 ウ.不登校となっている学齢生徒に関する事 エ.外国籍の者に関する事 オ.その他既存の夜間中学における教育機会の提供拡充に資すること</p> <p>「夜間中学の啓発・広報および生徒募集活動」</p>
調査研究のねらい	<p>本学級には現在39名の生徒が在籍している。戦争や差別、貧困・病弱・障害などで学齢期に教育の機会を十分に保障されなかった人たち、戦後中国に取り残され、何十年も経ってから帰国することができた人やその家族、それに結婚などで日本に住むことになったアジアや南米から渡日した人たちが学んでいる。</p> <p>「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」（以下、「教育機会確保法」と略する）が成立し、今まで入学が認められなかった既卒者などに入学の門戸が開かれた。とはいえ、夜間中学の存在を知らない人たちがまだまだ多く、入学の機会を逸している対象者が存在すると思われる。そこで、行政の広報誌のみならず、学校現場からもあらゆる機会をとらえて夜間中学の存在を地域に伝えていくことがこれまで以上に必要性であると痛感している。夜間中学を必要としている方を掘り起こすためにも啓発・広報および生徒募集に重点を置いた活動にとりくみたい。</p>
調査研究の成果	<p>・広報ビラ・ポスターの原案の検討</p> <p>4月19日(水)の職員会議において本年度の調査研究のねらいを確認するとともに年間計画について提案・検討した。毎年、啓発・広報活動は職員・生徒会で年数回おこなっているが、「教育機会確保法」成立を受け、さらに広く啓発・広報する必要性があることを職員間で確認した。その後数回、職員会議において夜間中学の広報ビラ・ポスターの原案を検討した。（完成ビラ・ポスターを資料添付）</p>

(5月に予定していた夜間中学教育研究者に夜間中学開設に向けたとりくみを聞く研修は講師多忙により11月に日程を変更)

・街広報活動 1

5月12日(金)に天理市のスピーカーつきの広報車を借用し、生徒会と共に街広報活動をおこなった。

・近畿夜間中学校連絡協議会 研修会

5月26日(金)に東生野中学において開催された近畿夜間中学校連絡協議会(以下「近夜中」)の研修会に職員数名が参加。文科省・初等中等教育初等中等教育企画課・教育制度改革室専門官 上久保秀樹氏の講演「教育機会確保法の施行と文部科学省の取り組み」を拝聴した。5月31日(水)に校内研修を持ち、近夜中での研修内容の共有化を図った。

・生徒募集ビラの各戸配布 1

8月、夏期休業中の期間を利用して、職員が天理市内前裁駅周辺で生徒募集ビラの各戸配布をおこなった。

例年、天理市の広報誌『町から町へ』に生徒募集記事を載せて貰っているが、今年度は9月号に「北中学校夜間学級・夜間中学で明かりが見えた」という学校紹介記事を掲載してもらった。

・街広報活動 2

10月12日(木)10月20日(金)の両日、市の広報車を借用し文化祭開催を知らせるとともに生徒募集も呼びかけた。(10月29日開催予定の文化祭は台風による天候不順で中止)

・校内職員研修

11月13日(月)奈良教育大学・次世代教員養成センターの准教授・野山美佳氏を招き、「基礎教育保障をめぐる現状と教育機会確保法成立以降の夜間中学増設の動向・各地の夜間中学運動の現状に学ぶ」という演題で講演を拝聴した。たくさんの資料をいただいたので、今後活用していきたい。(別紙資料添付)

・第63回全国夜間中学校研究大会に参加

2017年12月1日(金)・12月2日(土)の二日間にわたり堺市産業振興センターに於いて開催された第63回全国夜間中学校研究大会に職員が全体会・分科会、また学校見学に参加した。文科省委託事業に関することに絞り、まとめたい。

領域別分科会第5分科会「増設・教育条件・啓発活動」

全国で夜間中学設立運動を展開している諸団体からの報告があった。「教育機会確保法」成立後、夜間中学設立に向けた動き

が活発化していることがうかがえた。反面、自治体によってはニーズ調査が夜間中学を必要としている人を正確に把握できていないのではという実態が明らかになってきた。

全体会B

近畿からの発信では、近畿夜間中学校生徒会連合会による学校紹介があった。多くの学校で駅前等でのビラ配りをおこなっていて、生徒募集・啓発活動に力を入れていると取り組みが報告された。

分散会

生徒による討論交流会がもたれ、既卒者で大阪のある夜間中学に入学した生徒が入学に至った経緯を語り、「なぜ夜間中学はなかなか認知されないのか」という提起をした。ここでも広報活動の大切さが浮き彫りになった。

学校見学から

職員が岸和田市岸城中学校を訪問、授業のようすを見学してきた。生徒数減にあえぐなかさまざまな工夫を凝らして学習活動を展開している。生徒募集・啓発活動は年に1回スーパー等で行っている。補食復活を求める署名活動は小規模校でありながら、市民の理解を得、500筆の署名を集めたという。

・生徒募集ビラの各戸配布2

年末年始の冬期休業期間を利用して、職員が天理市内の西部団地（県営・市営）へ生徒募集ビラの各戸配布をおこなった。

・天理市内へのポスター掲示

2018年1月から2月にかけて教育委員会と連携しながら市内の公共機関や施設、公民館などにポスターを掲示してもらうとともに、ビラも置いてもらうようにした。今年度の取り組みでより多くの市民に夜間中学の存在をアピールすることができたのではないだろうか。保育所に貼られていたポスターを見て夜間中学の存在を知り、入学につながった人がいるので、今後ともより丁寧な広報活動に努めて参りたい。